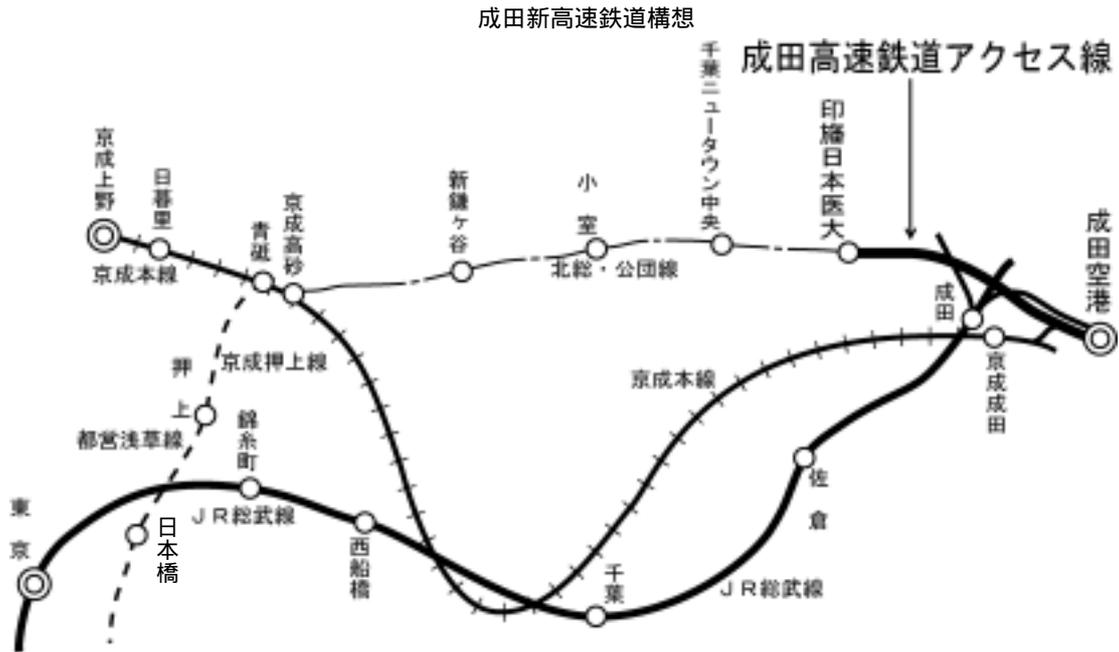


### (3) 空港アクセスの改善

当公団が平成12年10月に初めて実施したCS調査（お客様満足度調査）においても、成田空港の最大の課題は空港までのアクセスであることが指摘され、空港アクセスの改善が喫緊の課題であることが改めて認識させられ、鉄道、道路を含めた総合的な空港アクセスの改善が求められています。

このうち、鉄道については、成田新高速鉄道構想として千葉県を中心に関係者間で整備手法等について検討が進められた結果、平成14年4月25日に成田空港と京成高砂間の施設改良及び新線整備を行う会社として、千葉県等地元自治体、京成電鉄、当公団等が出資する「成田高速鉄道アクセス株式会社」が設立され、同年7月5日に国土交通省から鉄道事業許可を受けたところであります。今後、現在行っている環境影響評価を経て、平成17年度に建設工事に着手し、平成22年度の開業を目指すこととしています。この鉄道が完成すれば、成田空港 - 東京都心間が36分台で結ばれることになり、空港へのアクセスが大幅に改善されることとなります。



### 4. 経営上の重要な契約等

最近の事業年度において、重要な営業の全部又は一部の譲渡等経営上の重要な契約等はありません。

### 5. 研究開発活動

空港の管理・運営上の有用な調査・研究活動を進めておりますが、多額の研究開発費を要するものではありません。最近の取組みとしては、フロン対策としての蓄熱システムの開発があり、新たに開発された蓄熱剤（パラフィンをマイクロカプセル化し、水と混合し泥状にしたもの）を使用することにより、フロン対策のみならず、夜間電力の有効活用により電力のピーク時の負荷を軽減し、エネルギーコストの削減にも貢献できます。